

主体的な読書への取組み～校内一斉読書を通して～

鹿児島県立鹿屋高等学校

司書 拾三原 彩佳

1. はじめに

新学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びの実現を図り、生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動の充実が求められている。読書における「主体的な学び」とは何かと考えると、自らが興味関心を持った分野の本を読み、その本の内容をしっかりと理解し、それに対して自分の意見が持てることではないかと思われる。ここでは、読書における「主体的な学び」を「主体的な読書」と表した。そして、「主体的な読書」への取組みに当たり、学校図書館としてできることは、まずは、生徒が多くの本に触れる機会を提供することであると考える。今回は、特に全校生徒に対してその機会がある、校内一斉読書の取組みを紹介する。

2. 学校紹介

鹿児島県立鹿屋高等学校は、男女共学の普通科高校で、今年創立97周年を迎えた大隅半島にある県立高校である。1・3年生が6クラス、2年生が7クラスあり、現在642人の生徒が在籍している。「知・徳・体」が校訓で、大正12年（1923年）の創立以来、生徒の最高の目標であり、「知・徳・体」の調和的な向上発達に努め、心身共に健康な人間としての完成を期待している。また、校章の三星の光芒と校訓をかけて、生徒は「三星健児」と呼ばれる。

3. 図書館概要

本校の図書館は、平成16年3月に現在の場所に移動した。元は食堂として使用されていた。形がL字型で、天井が高い。普段は、「図書館は勉強をするところ」という意識があるのか、昼休みや放課後も読書や調べ物などをする生徒の姿はあまり見かけない。考査前と考査中に利用が集中し、自習をする生徒が大半である。

○ 場 所	／西側1棟, 2棟の間
○ 面 積	／ 閲覧室 287.0 m ² 事務室 30.0 m ² 倉 庫 69.0 m ²
○ 蔵書数	／ 35,371 冊
○ 新 聞	／ 4 紙
○ 雑 誌	／ 11 誌

4. 読書活動

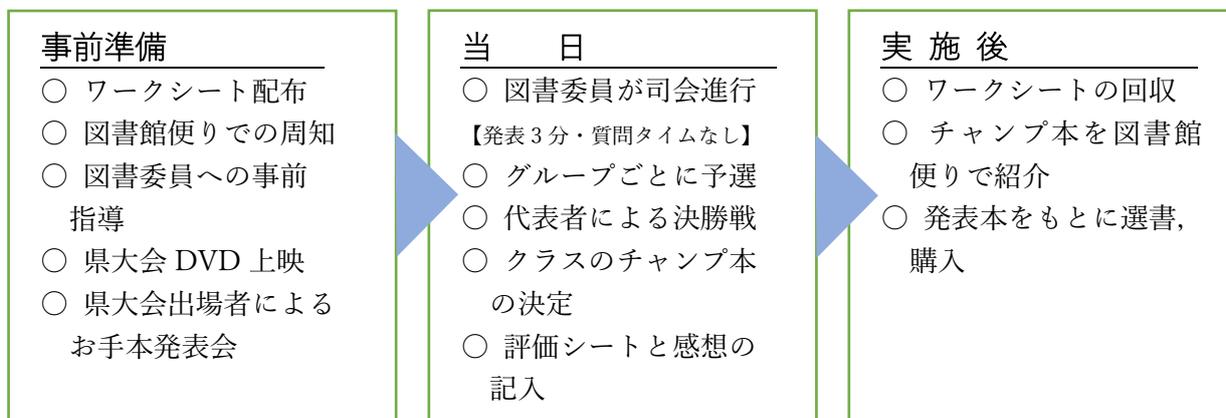
- 朝読書（全学年）
- 文化祭展示（図書委員会）
- 読書週間にあわせた企画・イベント（吹奏楽部・軽音楽部のミニコンサートなど）
- 校内一斉読書（三星タイム）
- クリスマスコンサート（吹奏楽部）にあわせた企画展示

5. 校内一斉読書

校内一斉読書は、年に1回、10月下旬から11月中旬の「三星タイム（統一LHR）」の1時間で実施される本校の読書活動の1つである。生徒の読書に対する積極的な態度と自主性、思考力を養うことを狙いとして実施される。また、学校司書・司書教諭としても、多くの本に触れる機会を作りたい、生徒同士のコミュニケーションを深めたいなどの思いがある。今年度は、11月13日（金）に実施予定である。

全学年で実施するので、全校生徒が参加し、一度に本に触れられる絶好の機会である。内容は、集団読書や輪読を実施していたが、ここ数年は、ビブリオバトルを開催している。ビブリオバトルは、時間の都合上、公式ルールは厳しいため、特別ルール【発表3分・質問タイムなし】で行っている。各クラスで予選・決勝戦を行い、チャンプ本を決めるというものである。

校内一斉読書の流れ



6. 成果と課題

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「楽しかった。」「またやりたい。」などの好意的な意見が多数あり。 ○ 普段読まない本も友達の発表で知ることができた。 ○ 友達が発表した本を図書館に借りに来る生徒がいた。 ○ 生徒がどんな本を読んでいるか知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ビブリオバトルの場合、時間の都合上、公式ルールで開催できない。 ○ 生徒の取組みに差がある。 ○ 後日、「人気者投票のようになってしまい、やる気が出なかった。」という意見があった。 ○ 実施内容と時間配分の検討が必要である。

7. 今後の取組み

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によって、読書活動も例年どおりの実施はできなくなってしまった。校内一斉読書も本来であれば、これまでの反省を生かし、更によい内容のものをとを考えていただけにとっても残念である。

今年度の校内一斉読書は、コロナ禍がなければ、「質問タイムを短くても設ける」「学年のチャンプ本を決める」などの案まで出ていたが、実施は難しい。そこで、読書指導係で知恵を絞り、各自がお薦め本のポップを作成し、見せ合い、予選・決勝戦を行う、「紙上ビブリオバトル」を実施する予定である。発表とは違う生徒のプレゼン能力を引き出せるのではないかと期待している。

8. おわりに

現状、校内一斉読書によって、貸出冊数が大幅アップなどの劇的な変化はない。しかし、本を身近に感じてもらうことに関しては、確実に生徒に影響を与えており、これからも続ける必要があると感じている。そして、校内一斉読書以外の「総合的な学習（探究）の時間」などでも「主体的な読書」ができるような環境作りに努めていきたい。